

アジア・アフリカ ラテンアメリカ

今月の読み物

- 2面 日本 AALA のとりくみ
- 3面 第2回 CELAC 首脳会議
- 4～5面 インドネシア、ミャンマー紹介
- 6面 光子のへやパート2、都知事選
- 7面 列島 AALA
- 8面 私と AALA

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会機関紙

2014年3月1日 No.644

第2回中南米カリブ海諸国共同体 (CELAC) 首脳会議開催される



首脳会議出席者集合写真 (キューバ外務省 HP より) — 記事は 3 頁

集団的自衛権問題

首相の憲法解釈変更発言へ抗議

立憲主義を否定、三権分立を崩す暴走

2月12日、安倍首相は衆議院で、集団的自衛権をめぐる答弁で、「選挙に勝てば、自由に憲法解釈を変更できる」との趣旨の発言をしました。これは、憲法を普通の法律と同じようにとらえ、立憲主義を否定し、三権分立を崩すものです。まさに、「海外で戦争をする国」づくりへの暴走です。

これには自民党内からも批判が出ています。日本 AALA は、首相宛に抗議文を出しました。



安倍内閣の憲法解釈変更による集団的自衛権行使容認の暴走を批判する「九条の会」の記者会見 (2月14日) (しんぶん赤旗提供)



日本 AALA の企画 具体的スケジュール

日本 AALA は、民間団体として東アジアに平和の共同体創設に貢献する方針にもとづき、次のような企画をつくり、具体化を進めています。

- ◎5月に、ASEAN 関係者を講師にして、ASEAN や TAC を学ぶ講演会を開催する。
- ◎6月に、インドネシアとミャンマーを訪問し、ASEAN や TAC を学び関係者と交流と懇談をする。
- ◎秋に、「東アジアに平和の共同体を」の方針と日本 AALA への理解を広めるための日本縦断ブロック学習講演会を開催する。*全国を数ブロックに分けて、各国の大使や専門家を講師におこなう。
- ◎2015年2月に日本 AALA 創立60周年記念行事として、「東アジアに平和の共同体を」(仮称)の「国際シンポジウム」を開催する。

さまざまな国の大使などと 懇談・要請

ASEAN の関係者に、この方針と具体的企画に理解を頂き協力をえるために、日本 AALA はさまざまなルートで働きかけをしています。今年に入り、代表理事や国際委員会委員を中心に、インドネシア公使、フィリピン大使、ベト

東アジアに平和の共同体の実現を

日本 AALA の方針や企画に対し アジア諸国に理解と協力を要請

ナム大使、ラオス大使とお会いし、方針や企画の説明をして協力要請をおこな

いました。フィリピン大使、インドネシア公使との会談の様子は、2月号で紹介しましたので、今回はベトナム大使との懇談の内容を説明します。なお、ラオス大使との懇談については、次号に紹介します。

ベトナム大使を訪問 方針の説明と協力依頼

2月5日、日本 AALA の秋庭稔男・小松崎栄代表理事、鈴木勝比古国際委員会委員、松井幸博常任理事は、ベトナム大使館を訪問し、ドアン・スアン・フン大使に新年のごあいさつをして日本 AALA の「東アジアに平和の共同体」をめざす方針の説明と協力依頼をしました。

懇談にはミン一等書記官、ホアン大使秘書官が同席しました。

ベトナム戦争支援に感謝 交流・協力していきます

最初に秋庭代表理事から、あいさつと日本 AALA とベトナムとの長い友好とベトナム戦争反対の連帯運動を語りました。大使は「みなさんの支援がなかったら、統一はなかった」と日本人民の支援に感謝の言葉が述べられました。

小松崎代表理事から、日本 AALA の「東アジアに平和の共同体」をの大会方針の説明と具体的取り組みへの協力をお願いしました。大使は「皆さんの方針には、アジアの諸国が協力するでしょう」と協力とアドバイスをしてくれました。

また今後とも、情報交換、活動交流、平和の維持活動には協力していきますと語られました。

懇談のなかで、秋庭代表理事からベトナム反戦の運動と秋庭代表理事の年齢を聞いた大使は、「ベトナム戦争で亡くなった戦士のためにも、ポー・グエン・ザップのように長生きしてください」と話されました。

ASEAN
訪問ツアー

6月22日～29日に実施

各都道府県 AALA から
積極的に参加をお願いします

7月はインドネシア大統領選挙、8月は ASEAN の外相会議など大きな行事がづく関係で、ASEAN 訪問ツアーは6月22日から29日におこなうことになりました。くわしくは、チラシをご覧ください。これからの都道府県での運動を発展させる上からも、積極的に参加をお願いします。

第2回 CELAC 首脳会議

自らの未来の統合を真摯に議論

1月29日第2回中南米カリブ海諸国共同体（CELAC、33カ国）首脳会議が、米州の米国とカナダを除く29カ国の国家元首・政府首班、4カ国の政府代表が出席して、キューバの首都ハバナで2日間にわたり開催されました。



キューバのラウル議長とコスタリカのチンチージャ大統領（グラマ紙より）

貧困、飢餓、不平等との闘いが中心テーマ

28日の開会演説で、キューバのラウル議長は、冒頭でCELACの創設に多大の功績があったベネズエラの故ウーゴ・チャベス大統領に黙とうを捧げたあと、地域の多様性に基づきつつ、統合の過程で、民族自決権、主権、諸国間の主権の平等の原則を尊重することを確認しました。さらにラウル議長は、この地域が地球で最も不平等な地域であること、貧困、飢餓、不平等とのたたかいが首脳会議の中心的テーマであると強調しました。この地域では2012年の貧困率が28.2%、1億6400万人であること、極貧率は11.3%、6600万人に達していること、上位10%の富裕層が地域の全所得の32%を受け取っている一方で人口の40%の貧困層はわずか15%しか受け取っていないことを話し、悲惨な状況を糾弾しました。

基本文書「ハバナ宣言」の内容

会議2日目には、基本文書である「ハバナ宣言」が採択されました。

宣言は、各国の政治・経済体制の選択の自由、紛争の平和的解決、武力の行使と武力による威嚇の禁止、民族自決権と主権の尊重、領土保全、内政不干渉、市民の民主主義への参加の推進を再確認し、差別、不平等、貧困化の一掃、所得の不平等の漸進的な減少、飢餓、貧困、社会的排除の一掃、正規雇用の創出、労働安全、社会扶助、社会保障、最低賃金の確立と増額を強調しています。

国際金融機関や多国籍企業の横暴については、国際金融機関のより厳密で効果的な規制、各国の資源の自主的な利用と管理の重要性を指摘しています。また、米国の対キューバ経済制裁の解除の要求、アルゼンチンのマルビーナス諸島の領有権の承認と、交渉による解決、コロンビア政府とコロンビア革命軍（FARC）との和平交渉の支持、ハイチの復興の支

援とカリブ海の島嶼諸国、中米諸国、南米北岸諸国への支援を訴えています。

さらに、核軍縮、全面的な核兵器の廃絶、NPT再検討会議の推進、核兵器の人道に及ぼす影響オスロ会議と今年度のメキシコ会議の支持、域内のトラテロルコ核兵器禁止条約に基づく、中南米カリブ海核兵器禁止機関（OPANAL）の作業の推進を訴えています。

「平和地帯の創設」を決議 史上はじめての非核・非戦地帯に

会議は、29の特別決議とともに、域内での内政干渉禁止、武力の使用と武力による威嚇の禁止、紛争の平和的解決の義務をうたった平和地帯の創設を決議しました。この合意により、中南米カリブ海地域は、史上初めて非核、非戦地帯となりました。

会議では、2015年に第3回CELAC首脳会議をコスタリカで開催することを決定し、2015年度の次期議長国にエルサルバドルを選びました。前議長国のキューバと、カリブ海諸国のサンタ・ルシアが参加して、新たにクワルテット体制が取られることになりました。

米国以南の地域が、アメリカの勢力圏から脱出して、自主的に自らの未来の統合を、政治的、経済的立場を超えて真摯に議論した会議でした。

（国際委員会責任者・新藤通弘）

用語解説

*トラテロルコ核兵器禁止条約

1967年に成立した中南米における核兵器禁止に関する条約（メキシコのトラテロルコで調印）

*貧困率（国連のラテンアメリカ・カリブ海経済委員会の定義）
食べてはいけるが生活必需品を買うのが精一杯で、レジャーも貯蓄もできない状態の人びとの率

*極貧率（同上の委員会の定義）

生活必需品にもこと欠き3度の食事にも欠けることがあ
る状態の人びとの率

東南アジア友好協力条約は 平和の行動規範

インドネシア訪問記

1月26日から31日まで AALA のみなさんとともにインドネシアを訪問しました。ジャカルタでは ASEAN 書記局と非同盟南南技術協力センターを訪問し、さらに足を伸ばして首都ジャカルタから東南へ約 150 キロ、海拔約 700 メートルの高原都市バンドンを訪問して、アジア・アフリカ会議（バンドン会議）博物館を見学しました。

ASEAN 書記局を訪問 国際部長から ASEAN や TAC を学ぶ

27日午前、ASEAN 書記局で、ASEAN 政治・安全保障共同体局のバラクマル・パラニアパン国際部長（マレーシア）が、2015年12月21日発足予定の ASEAN 共同体づくりのとりくみを紹介してくれました。

バラクマル国際部長は、政治・安全保障共同体、経済共同体、社会・文化共同体を ASEAN 共同体の3つの柱と形容し、歴史的な ASEAN 共同体発足に向けて、書記局の職員も2003年の173人から現在は280人に増やして、3つの共同体づくりを加盟10カ国ですすめる調整役を果たしていると強調しました。

東南アジア友好協力条約（TAC）に ASEAN10カ国以外に22カ国が加入し、「いまや TAC がこの地域の平和維持の行動規範になっている」と述べ、さらに今年末に向けて、東南アジア非核兵器地帯条約の特別議定書への核保有5カ国の署名を得るための交渉をすすめていることを紹介しました。

私たちの質問に対して、「日本も領土紛争では試練を経験していますね。私たちも中国との南シナ海での領有権紛争を抱えています。平和的に解決することが大切だと思います。ASEAN は南シナ海の紛争の平和解決に貢献しています」と語りました。

原発建設に関しては「ベトナムが計画しています。各国の主権に属することですが、ASEAN としての意見交換をおこなうことになるでしょう」と答えました。



ASEAN 書記局での懇談

南南技術協力センターで 副所長の説明を受ける

非同盟南南技術協力センターではアフマド・ロフィ副所長（インドネシア）が私たちの訪問を歓迎して、スライドを使って1955年のバンドン会議から非同盟運動の発足、非同盟運動の発展のなかで、インドネシアが土地を提供し、ブルネイが資金を提供して、「南南技術協力センター」が発足した経過をくわしく紹介しました。副所長は、南南技術協力センターの目的は「発展途上国のいっそうの発展と途上国間、途上国と先進国間の平等な国際関係を築くことである」と強調しました。私たちの質問に答えて、水力発電、地熱発電などの再生エネルギー開発に力を入れていて、各地で技術者養成や経験交流のための研修会を開催していることを紹介しました。

バンドン博物館や遺跡の見学

バンドン博物館では大学院で学んでいる女性説明員が流暢に英語を使って、バンドン会議開催構想から55年4月の会議開催までを当時の国際情勢にもふれながらくわしく紹介してくれました。このほか、バンドンではアングルンと呼ぶ竹製の伝統楽器の演奏を観賞し、古都ジョクジャカルタとインドネシアが世界に誇る仏教遺跡ボロブドゥールを訪問しました。

インドネシアの若者からお年寄りまでインドネシアがバンドン会議を開催したことを誇らしく思っています。自国が東南アジア各国の平和の共同体づくりに積極的に参加していることを喜んでいることを実感できました。（国際委員会 鈴木勝比古）



シェーダゴンパゴダ

民主化に向かう ビルマを訪ねて

現地で感じた息吹

昨年秋にビルマを訪ねた。主目的は、NLD（国民民主連盟）の方々との交流と観光だった。

到着の翌日、アウンサンスーチー宅へ。自宅軟禁時代とは見違えるほど整備された正門を見た後、NLD本部に向かった。NLD本部といえば軍事政権の時代には、軍の情報部門の人がビデオカメラを持って出入りする人を常時監視していたところである。現在は、そのような監視活動はなされていない。隔世の感がする。

年上の方が尊敬される習慣が根付いているビルマ社会だが、NLD副議長と面会した2階の会議室にも若い女性職員達が居て、NLD組織の若返りが進んでいることが実感できた。現地ガイド兼通訳の方も、言論の自由が出来たと喜び、ビルマかミャンマーかの呼称（注）について、政府側でもNLD側でもない独自の意見を述べていた。

多くの課題も

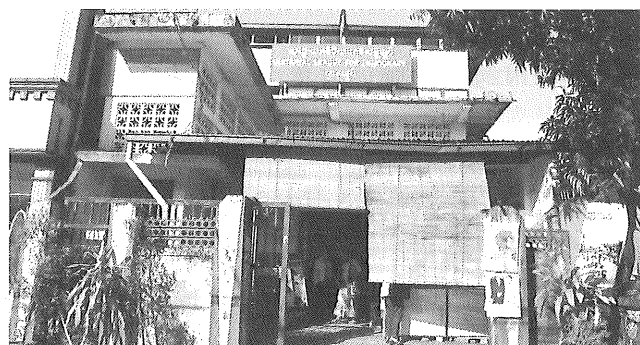
このように民主化が進んでいるように見えるビルマであるが、課題も抱えている。①軍人が議席の25%を自動的に割り当てられる議会制度を定めた2008年憲法を改正する必要性。②人口の約7割

を占めるビルマ族。それ以外に主要6民族、細分類すると135の民族がいる。1948年の独立以来の歴史的経緯もあり、民族間の武力衝突が続いている。1947年に締結された少数民族（注）とのピンロン協定をさらに発展させ、この問題の解決をする必要がある。③経済統計の整備など経済政策に多くの課題を抱えているなど、課題山積である。

ASEANの枠組みのなかで

ビルマの民主化は、軍事独裁政権の下での経済発展が失敗したことを受けて、NLDなどの民主化勢力への軍事政権の弾圧に対する国際世論の圧力もあり、余儀なくされたものである。1962年の軍事クーデター以降、鎖国に近い政策を取ってきたが、1997年にASEANに加盟した。その後2003年に発生したディバーイン事件の後、ASEAN外相会議は、アウンサンスーチーの釈放を求める声明を出している。

2012年の補欠選挙でも、NLDは1990年に続いて高い支持率を得た。2015年に予定されている総選挙が新憲法の前でおこなわれるのかどうか。歴史的にビルマと深い関係を持つ日本、日本人にとってもビルマの民主化がどの様に進むのか目が離せない。【BI総研(Business intelligence institute)代表大村 哲】



NLD本部ビル

（注）ビルマの呼称について—1986年、軍事政権は英語表記の国名をミャンマーに変更した。しかし米英政府やおもな人権団体、アウンサンスーチー氏などはビルマとしている。今回は筆者の呼称を用いた。

（注）ビルマの主要少数民族：シャン族（8.5%）、カレン族（6.2%）、ラカイン族（3.5%）、モン族（2%）、カチン族（1.5%）、カヤー族（0.75%）、それ以外に、中国人（3.6%）、インド人（2%）もいる。ただし、人口統計も未整備なビルマ故、比率は目安にすぎない。

用語解説

* NLD（国民民主連盟）
ミャンマー（ビルマ）の政党。議長はアウンサンスーチー氏。

光子のへや パート2 生きること、愛すること

軍国少女が共産党代議士に

2月11日、光子の部屋パート2をひらきました。参加者は18人。四ツ谷光子さん（日本 AALA 代表理事）の「生きること 愛すること」と題してお話でした。

バリバリの軍国少女だった四ツ谷さんが、太平洋戦争の2カ月後に共産党の演説会に参加したことで「私の生きる道はこれしかない」と180度変わった人生を歩んで来られたこと。大阪教職員組合の女性部長をしていた時に衆議院議員へと声がかかり当選。1期をつとめたあと、AALA に出会って、現在まで AALA 一筋の活動をしているという感動的なお話でした。

「日本ではまだまだ女性の権利は小さいです。AALA のほかの国を見ると日本より進んでいます。私はこれからみなさんと一緒に運動を進めて行きたいと考えています」と力強い言葉で



めくられました。参加者からは「いつもおしゃれで素敵ですね。どうやってそんなに素敵なのですか」というざっくばらんな質問もあり、楽しくなごやかな学習会でした。

澤田有大阪 AALA 理事長の「15分で学ぶ世界の変化」も非常にわかりやすいお話で、参加者からは「すご〜い。15分でこんなに分かりやすくお話されるなんて…」と感嘆の声があがりました。

前回につづき、西野敏恵さんの朗読では、ほっこりとやさしい時間が流れました。

ハーブティーを飲みながら全員が発言し、じっくりと交流する学習会。パート3は3月24日を予定しています。この日は吉瀬孝子さん（大阪 AALA の副理事長）をゲストとしてお迎えしてお話をさせていただく予定です。

（大阪 AALA 事務局次長 上村得世）

宇都宮さん 安倍暴走ノー、都政転換、東京から平和発信 「二強対決」論を打ち破り大健闘

2月9日投票の都知事選挙で宇都宮けんじさんは、「ストップ！安倍暴走」「福祉第一の都政を！」「原発ノー！」「東京からアジアに平和を発信しよう！」などを訴えがなりました。

結果は自民・公明が推す舛添要一氏が当選しましたが、宇都宮さんはマスコミなどがあおる「舛添対細川」の二強対決論などをはねのけ、得票率も伸ばして第2位になるな

ど、大健闘しました。また、宇都宮さんの政策と人柄や実績に共鳴し、共同の輪が日に日に大きくなったことも大きな成果でした。

宇都宮さんは支援に感謝するとともに、「前回の選挙と比べたら運動の輪が広がり大きく前進した。選挙政策で掲げた福祉の充実、原発、原発事故の被害者救済、憲法改悪に反対する運動などを続けていきたい」と語りました。

沖縄からうれしいたより

AALA の機関紙と写真を受け取りました。

沖縄ツアーはとても中身の濃いものだったんですね。すごく強行スケジュールのなか、朝宣伝、訪問などががんばってくださったのだと感謝の気持ちでいっぱいです。

私たちのたたかいは世界とつながっていることを再確認することができた機関紙の記事でした。励まされました。ありがとうございます。

（名護市やんばる統一連事務局局長の上野郁子さんからのハガキ）



茨城

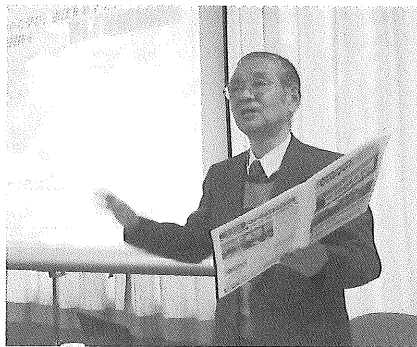
2014年の世界を展望する

1月26日「2014年の世界を展望する」と題して、茨城 AALA の林理事長がパワーポイントを使って講演しました。AALA の話をはじめて聞く新しい会員や会員外の方を含め、20 数人が参加しました。

講演では非同盟諸国の発展、日本 AALA の歴史と役割、この1年間の茨城 AALA の活動を紹介し、最後に会員拡大の重要性を訴えました。

1時間の講演時間を20分超えましたが「時間オーバーが『時間不足』に感じられた」「党大会決議の世界の見方と重なり合わせて学ぶ機会となった」（共産党県委

員長) などの感想が寄せられました。講演の DVD も普及し、2 人が入会しました。（黒沢 一也）



茨城県 AALA 林理事長

千葉

キューバスタディーツアーを本にして

昨年2月実施のキューバ旅行やそこで得たキューバの最新情報をまとめて「見た、聞いた！キューバ改革最前線」という本を発行しました。はじめての経験で、ツアーの案内をしてくださった新藤通弘先生やツアー参加者の会員の協力（刊行委員会に3人参加）がなければ、刊行には至りませんでした。半年以上に及ぶ月1回の会議では、それぞれ分担原稿を持ち寄

り意見交換しました。それも充実していましたが、その後の居酒屋談議は、いろいろな話が飛び出して楽しく、次回が待ち遠しくなるほどでした。

800冊印刷した本は、新藤先生や日本 AALA の協力を得ながら販売しています。千葉県 AALA では販売目標をゆうに超え、現在490冊の販売に向けて奮闘中です。

雑誌「経済」、富士国際旅行社の「いい旅、いい仲間」、月間「ラティーナ」、農業協同組合新聞に書評が掲載され、全国から注文が届いています。つい最近は、外務省からも注文があり、驚いています。キューバの政治や経済、社会保障などを解説した本はなかなか見当たりません。興味のある方はぜひ読んでみてください。

（上田 敦子）



「見た、聞いた！キューバ改革最前線」

福井

第4回韓国平和友好の旅

福井県 AALA は2013年11月7日から10日まで「第4回韓国平和友好の旅」を主催しました。

今回のおもな目的は、アジア平和文化交流の会・3周年記念集會に参加することでした。集會には福井からは18人、日中韓から総勢130人が参加しました。福井県 AALA から北出芳久理事が「東アジアの平和実現のために 一日・韓・中三国市民の連帯を一」と題して講演しました。北東アジアの紛争を解決し平和の地域をつくるには、TAC（東南アジア友好協力条約）と同様な TAC in NEA (NEA = 北東アジア) をつくり、話し合いで解決して行くことが重



韓国平和友好の旅参加者（韓国国会議事堂前にて）

要であると主張しました。私は「原発ゼロを目指して」と題して講演し、脱原発のためには草の根型の国際連帯運動を進めることが重要であると訴えました。両講演には会場から大きな反響があり、日中

韓での連帯運動の芽が出てきました。旅行の総括として参加者の感想や参考資料をまとめて「第4回韓国訪問の記録」（A4版101ページ、400円）を発行しました。

（山本富士夫）

北海道

各団体・会員がつどい
出版記念会

北海道 AALA は今年創立 50 周年。その記念行事の一環として、昨年末、鈴木頌著「AALA ブックレット」(ベネズエラ…何が起きたか、メキシコ麻薬戦争列伝の 2 冊) を出版しました。出版を祝い、広く読んでもらおうと、1 月 25 日「AALA ブックレット出版記念会」を札幌市内でおこないました。

冒頭、伊藤・北海道 AALA 理事長から「世界の大きな平和の動きを知る糧として、このブックレットを読んでいただきたい」と訴えがありました。さらにジャーナリストの伊藤千尋さんから、「日本では、政府ばかりかメディアもアメリカに従属しがちだ。アメリカの目から見た偏ったニュースを信じると、世界の流れを見間違えう。現場から発信するこのシリーズは、中南米の現状を伝えてくれ



AALA ブックレット出版記念会参加者のみなさん

る」と、ブックレットの帯にもなっている推薦のメッセージが紹介されました。

参加した石田・道平和委員会会長、堺・道民医連会長、児玉健次・道革新懇代表、宮川潤・日本共産党札幌市議などから、ブックレット読んだ感想、お祝いの言葉があり、安倍内閣の暴走や原発、社会保障の分野でのたたかいかも紹介されました。会員からも「マッチ売

りの少女のように寒空のなかブックレットを 40 冊以上普及した」などのスピーチがあり、創立 50 周年の最初の行事にふさわしく盛り上がりました。

日本 AALA や各地のみなさんには、これから見本をお送りしますが、われわれの合言葉「世界を知って日本を変える」たたかいの一助として、ぜひ広めていただきたいと思います。(伊藤 恵夫)

わたしと

58



AALA

東京・西東京支部
増賀美津子

日本 AALA ここにあり

日本の状況とくらべて世界の流れはどうなっているのか知りたくて、昨年東京 AALA が企画した連続学習会に参加しました。世界の情勢の様変わりを知り、目の前がひらけた思いでした。世界が身

近に感じられます。

南アメリカ諸国は、ジャマイカ・キューバなどのカリブ海共同体、中南米カリブ海共同体など、政治的にも経済的にも自主的発展の道をすすみ、もはやアメリカの裏庭ではないという。今年 1 月 29 日、メキシコからアルゼンチンまで中南米カリブ海地域のすべての独立国(33カ国)の首脳会議では、この地域の「平和地帯宣言」を採択しました。力強い限りです。

最近テレビで見た映画「クール・ランナー」は、常夏の国ジャマイカの青年が主人公。カルガリー冬季オリンピックのボブスレイ出場をめざし、貧しいなかを仲間と練

習に励む。ジャマイカ人のプライドとパワーを発揮した作品で、感動しました。

非同盟運動の諸国は国連加盟の 3 分の 2 を超えて現実に世界の平和・友好と変革の先頭に立っています。東南アジア諸国連合の平和外交が注目されています。

日本はこの流れから立ち遅れています。私たちは平和憲法を守り、草の根の運動を強めることにより、世界に通用する国に変えることができるかと確信しています。

AALA 西東京支部の旗をどこにでも立てて、「AALA ここにあり」の意気込みで前へ一歩です。

編集・発行

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会

JAPAN ASIA AFRICA LATIN AMERICA
SOLIDARITY COMMITTEE

住所 〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-11-7 第 33 宮庭ビル 4 階

電話: 03 (5363) 3470 Home Page <http://www.japan-aala.org/>FAX: 03 (3357) 6255 E-mail: info@japan-aala.org

振替 00110-6-72434 毎月 1 回 1 日発行 1 部 150 円 (送料 60 円)